

ユーロ圏金融政策（2024年12月）

3会合連続で0.25%ptの利下げを決定

2024年12月13日

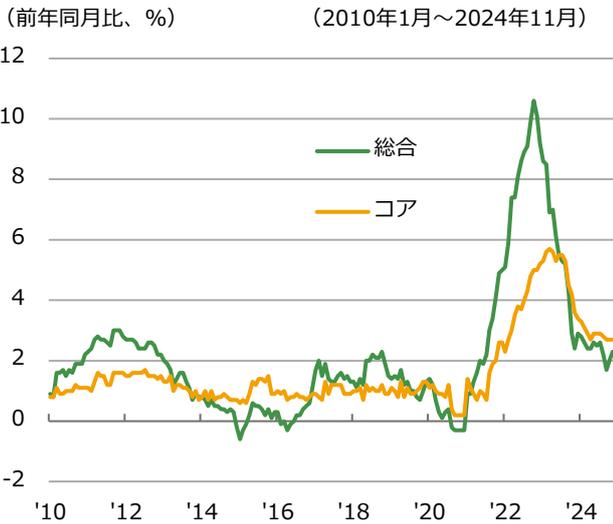
インフレ目標へ進展中も、データに基づき会合毎に適切な政策を決定

ECB（欧州中央銀行）は12月12日（現地）の理事会で、現在の主たる政策金利である中銀預金金利（銀行がECBに所要準備を上回って預け入れる資金の金利）を市場予想通り3.25%から3%へ引き下げました。一部に0.5%ptの利下げの意見もあったが全会一致で決定したと、ラガルド総裁は説明しました。6月に利下げを開始し、7月は利下げを見送った後、9、10、12月と3会合連続で利下げを実施したことになります。

四半期に一度の経済見通しでは、実質GDP成長率を2025年は1.1%、2026年は1.4%と、9月時点の見通しからそれぞれ0.2%pt、0.1%pt下方修正し、今回から見通しの期間に入った2027年は1.3%へ減速するとしています。また、各国で決定済の政策以外は見通しの前提としておらず、米国の新政権の政策次第で景気が一段と下振れるリスクをラガルド総裁は懸念しています。他方、インフレ率は2025年が2.1%、2026年が1.9%と、前者は0.1%ptの下方修正、後者は据え置きで、2027年は2.1%としています。ラガルド総裁は、過去6回の見通しの全てにおいてインフレ率が2025年中に2%へ収れんとするとの想定は不変で、実際、インフレ率は2%の目標へ向けて想定通り進展中であることを強調しました。

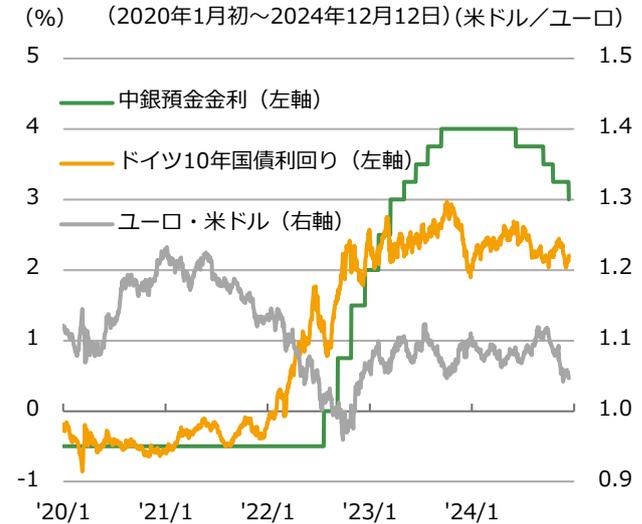
ECBの唯一の責務である物価安定への進展を受け、声明文中の「政策金利を必要なだけ長く、十分に抑制的なままにしておく」との表現は削除されました。しかし、インフレのリスクは両方向で不確実性も高いとしており、適切な金融政策姿勢はデータに基づき会合毎に決定するとの方針に揺らぎは見られません。

ユーロ圏の消費者物価指数



※コアは食品・エネルギー・アルコール・タバコを除く系列
(出所) 欧州統計局

ユーロ圏の金利と為替



※中銀預金金利は発表日ベース
(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。